限りある時間

三年 若林明花

私は理科の授業での先生の発言に衝撃を受けた。

「日本以外の国では、死んだペットの細胞から作られた『クローンペット』を飼う人が増えているみたいですね。」

『クローンペット』という聞き慣れないワードが耳に入ってきた。ネットで検索してみると、死んだ愛犬の細胞から作られた、いわゆるクローン犬を抱いている笑顔な男性の動画がのっけていて、その男性はこう語っていた。

「初めて見た時に、そっくりだと思いました。前の犬は家族の一員でしたから。他の犬を飼うなんて考えられないです。」

男性はクローンの作成に抵抗はなく、実際にそっくりな犬を飼ってみて満足しているという。

このような実態をふまえて、海外での技術の発展はペット産業にまで影響しているのだなと感心してしまった。だが、『クローンペット』が増加することは、命を尊ぶことに欠けるのではないかとも思う。私もペットのインコを飼っているが、動物たちも生きていられる時間には限界がある。だからもし、そ

の限界がきてしまったら、私は悲しい感情があふれて止まらなくなり、その後も何度もあの子の飛びまわる姿を見たくなくなったり、鳴き声を聞きたくなくなるかもしれない。こんな悲しい思いをすると分かっているのに、なぜ私たちはペットを飼うのか。それは、大好きなペットと過ごす限りある時間が一生の宝物になるからだ。“限りある時間”が『クローンペット』で補われてしまうと、その宝物が途端に軽いものになってしまい、命を軽視するような社会になる可能性もゼロではないと感じた。

私が考えるペットの役割とは、癒しをあたえてくれるもそうだが、何より、限りある時間をともに過ごし、命の尊さを教えてくれる役割があると思う。天国へと旅立っていったペットたちは、どんなことを私たち飼い主に伝えてくれただろうか。どんなことを教えてくれただろうか。『クローンペット』などの技術が発展する中で、飼い主は限りある時間をどのように過ごすのが求められてくる。私も飼い主の一人だ。ペットと過ごしている時間を大切にし、この限られた時間で一生の宝物を作っていきたい。もし、先に旅立ってしまったとしても、命の大切さを教えてくれてありがとうと飼い主の自分からは伝えたい。飼い主のみなさんは、この限られたペットとの時間をどのように過ごしますか。